

浅葉克己 U.G.サトー 松永真  
「3人のポスター」展

2011年6月17日[金]—7月6日[水]  
名古屋芸術大学アート&デザインセンター

公開講座：「広告表現論」

会場：名古屋芸術大学 西キャンパスB棟大講義室  
どなたでもご参加いただけます。



U.G.サトー氏  
6月22日[水]  
16:30~18:00



松永真氏  
6月29日[水]  
16:30~18:00



浅葉克己氏  
7月6日[水]  
16:30~18:00



『ネーデルランド・ナウ2011；リーヴェン・ヘンドリクス×満江英典』展  
Netherlands Now 2011; Lieven Hendriks × Hidenori Mitsue

2011年9月16日[金]—9月28日[水]  
名古屋芸術大学アート&デザインセンター

公開制作

日時：8月26日[金]—9月13日[火] (平日のみ)  
13:00~18:00

会場：名古屋芸術大学 G103教室

L.Hendriks氏による公開講座  
「自作について；オランダの絵画事情」

日時：9月15日[木] 15:00~16:30

会場：名古屋芸術大学 アート&デザインセンター  
ギャラリーBE

オープニング・レセプション

日時：9月15日[木] 16:30~18:00

会場：名古屋芸術大学 アート&デザインセンター  
ラウンジ

オランダはルネサンス以降現在に至るまで多くの美術家を生み出して来ました。そのオランダで現在頭角を現している満江英典氏と、オランダを中心に数多くの展覧会を開催しているLieven Hendriks氏(本年度アートクリエイターコース客員教授/ユトレヒト芸術大学芸術学部講師)に、約3週間のアーティスト・イン・レジデンスで制作を公開していただきます。その後、学生たちも加わり、公開制作した絵画を含む展覧会『ネーデルランド・ナウ』を開催します。その他、公開講座・ワークショップなど、オランダ絵画・ヨーロッパ美術の現状・文化に触れていただけるまたとない機会です。



「Sunny Spells」  
Lieven Hendriks  
2010



「Scaramouch」  
満江 英典  
2010

Open 12:15~18:00 (最終日は17:00まで) 日曜・祝日休館 入場無料 どなたでもご覧いただけます。  
スケジュールは変更になる場合がありますので、ご確認ください。

- 6/3(日)→6/8(木) 『版の方法論#6~木版編~；バンコクと名古屋から』  
『木版画 selection』
- 6/10(土)→6/15(木) 名古屋芸術大学教員展
- 6/17(土)→7/6(木) 2011年度夏の企画展  
浅葉克己 U.G.サトー 松永真「3人のポスター」展
- 7/8(土)→7/13(木) 洋画2コース選択展覧会  
2011年度 前期交換留学生作品展
- 7/15(土)→7/20(木) 洋画1コース3年展
- 7/22(土)→8/3(木) 素材展(メタル&ジュエリーコース、テキスタイルデザインコース前期制作展)
- 8/4(土)→9/15(木) 夏期休館
- 9/16(土)→9/28(木) 2011年度 秋の企画展  
『ネーデルランド・ナウ2011；リーヴェン・ヘンドリクス×満江英典』展
- 9/30(土)→10/5(木) ソフトスカルプチュアへ12展

編集後記

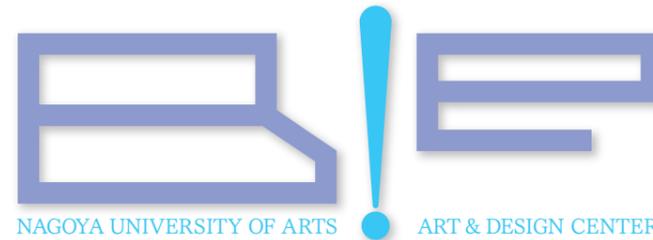
この春よりセンターのスタッフとして編集を担当させていただくこととなりました。  
今回の特集「デザインの青春」では、三者三様の人生の物語を垣間見ることができました。偉大な先人たちの記憶が、日々学内で制作活動をするアーティストの卵たちと重なります。震災以降どこか不穏な雰囲気が漂いますが、季節は春から夏へ、爽やかな空気の中で、今しか出来ない経験と思い出をしっかりと蓄えてもらえたらと願います。  
猪狩香織(アート&デザインセンター)



最寄りの交通機関をご利用の場合  
名鉄大山線(地下鉄有楽町線乗り入れ) 徳重-名古屋大駅下車西へ約1,000m徒歩15分  
※急行一乗車電車の場合は西春駅で普通電車に乗り換えるか下車してください  
中部国際空港からも名鉄大山線をご利用ください  
西春駅から北西約2,200m徒歩25分、西春駅からはタクシーの便もあります  
自動車をご利用の場合  
名神-宮インターから10分、名神小牧インターから15分



大学基準協会認定マーク  
本学は2011年4月に、大学基準協会の大学基準に適合と認定され、認定評価を再取得しました。  
認定期間は、2011年4月から2018年3月までです。  
これにより、法令化されている「第三者による認定評価」にも合格したことになります。



NAGOYA UNIVERSITY OF ARTS

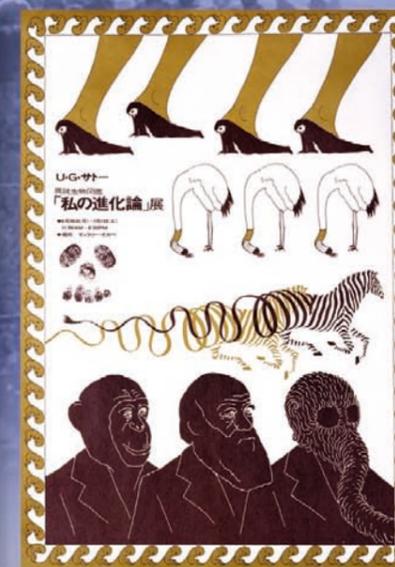
ART & DESIGN CENTER NEWS

2011. Vol. 31

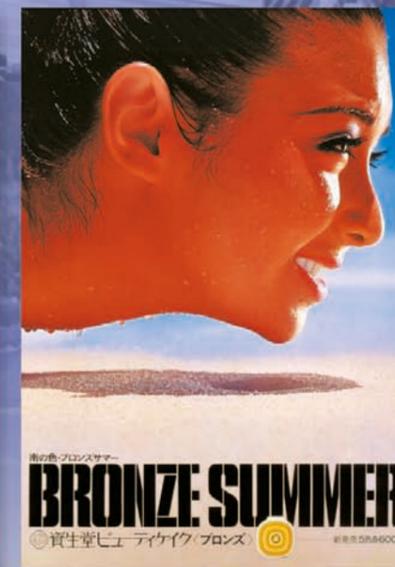
デザインの青春  
Youth of Design



浅葉克己  
「国際具体詩展」ポスター(1965)



U.G.サトー  
「私の進化論」個展ポスター(1972)



松永真  
資生堂「BRONZE SUMMER」(1969)

広告デザインの黎明と青春

名古屋芸術大学では、現代を代表するデザイナー、浅葉克己・U.G.サトー・松永真、3氏のポスターを一堂に集めた「3人のポスター」展を開催することになりました。なお、この展覧会にあわせ、3氏による「公開講座」によって、3人の先生から身近にデザインを伝えていただく貴重な機会が実現します。  
私にとっての3氏は少し年長の、しかし二歩も三歩も上を行く大先輩といえます。日本にまだデザインという言葉が定着していない時代、「凶案」や「商業美術」又は「宣伝美術」と呼ばれた時代を共有した世代としては、私も同輩だと云えるでしょう。当時、「日本宣伝美術」※1という名称の公募展(1951~1970)があり、それは新人の登竜門としてとても熱い存在でした。略して「日宣美」、これに知らなければ「一人前のデザイナーになれない」とまで云われました。後に、この実体のない権威主義が一人歩きをし、これに反抗したガバ学生たちのデモ行動をきっかけに、20年にわたる活動の幕を閉じる事になるのですが、「日宣美」を通して現代のグラフィックデザインの基礎が築かれたともいえるのです。  
当時の私は7月の締切りに向けて、この「日宣美」に応募するべく、せまい下宿の部屋にB全パネルを持ち込み、汗のシミをつくらぬように気を配りながら、手描きのポスター制作に取組んでいました。その頃のことは、暑い夏の思い出に重なって、今も記憶に鮮明です。やがて時代は、手描きに換わりシルクスクリーン印刷全盛になりますが、その表現手段は現在のデジタル時代とは雲泥の差がありました。我々世代には共通した時代の思い出です。  
1960年には世界デザイン会議※2が開かれ、1964年には東京オリンピックの

開催へと続きます。亀倉雄策※3氏の制作した公式ポスターを中心に、当時一線で活躍していたデザイナー達が参加し、グラフィックデザインの力を結集した初めての、公的イベントとして注目を集めました。この頃から日本中が高度経済成長に沸き立ち、華々しい広告時代が始まります。私の勤務先サン・アド(1964年設立)も年々、新しいクライアントが増えて行き、徹夜、徹夜の毎日でした。3人の大先輩たちも、各々の職場で多くの名作広告やポスターを社会に発信し続け、各種の賞を総ナメにしていた時代です。  
3氏はフリーとなって事務所を構えてからも、半世紀にわたっていつも時代をリードする作品を発表してこられました。そんな3氏は、どんな20才の頃を過ごされたのでしょうか？大先輩たちの今日が有る秘密は、いったいどこにあるのか？  
展覧会とあわせ、ぜひとも「デザインの青春」を見極めてください。  
佐藤 浩 グラフィックデザイナー/デザイン学部教授

※1 日本宣伝美術会(1951~1970): 戦後最初の全国的職能団体として設立。東京・大阪・名古屋他、全国主要都市で毎年開催され、デザイン史に残る多くの名作を生み出した。  
※2 世界デザイン会議(1960): 世界27か国227名のデザイナー、建築家、評論家などが参加し、東京で開催された。デザイン分野の枠を超え討論し、その後の日本のデザイン界に大きな影響を残す。これを機に「デザイン」という言葉が認知される。  
※3 亀倉雄策(1915~1997): 新潟県生まれ。日本宣伝美術会・日本デザインセンターの創立に参加し、日本におけるグラフィックデザイン界の礎を築いた。代表作に東京・札幌オリンピック・大阪万博ポスター・NTTシンボルマークなどがある。

名古屋芸術大学 Art & Design Center  
〒481-8535 愛知県北名古屋市徳重西沼65番地 TEL[0568]24-0325 FAX[0568]24-2897

Ble Vol.31  
発行日 2011年5月31日  
編集 高橋綾子(美術学部美術文化コース)/猪狩香織(アート&デザインセンター)  
発行 名古屋芸術大学アート&デザインセンター  
〒481-8535 愛知県北名古屋市徳重西沼65番地 E-mail adc@nua.ac.jp URL http://www.nua.ac.jp  
2011 Printed in Japan © Art & Design Center, Nagoya University of Arts デザイン/印刷 サンメッセ株式会社

浅葉克己氏・U.G.サトー氏・松永 真氏への



日本が高度経済成長期を向かえ、急速な発展を遂げた1960～70年代。広告の需要が増え、日本における商業美術の基礎を作り上げました。そんな華々しい時代こそ、日本デザイン史にとっての「青春」ではないでしょうか？日本を代表するデザイナー浅葉克己氏・U.G.サトー氏・松永 真氏は、その頃まさに青春ど真ん中。熱い思いを胸に抱き、時代を色濃く反映する商業デザイン界を今日まで第一線で走り続けてきました。

そんな3人に「デザインすること」への志についてお聞きしました。

## 浅葉克己

ASABA KATSUMI

デザインとは、環境と尊敬する人間との出会いの中で思考し、醗酵されるものだ。僕は、三方を山に囲まれ、一方が海に開けている横浜の金沢文庫、称名寺の境内で生まれた。金沢文庫には鎌倉時代からの国宝や重文の彫刻や絵画、書がたくさん残っていて、そこを遊び場として成長してきた。僕は船乗り憧れた。三浦三崎の水産学校を卒業すれば6人乗りの船の船長になれるという話を聞いた。中学の図画の志田先生に話したら「君は絵がうまいから」と、県立神奈川工業高校の図案科入学を薦められた。15才で覚えた図案、デザインという手技を一生離さなかった。

主な仕事  
西武百貨店／サントリー／日清食品／武田薬品／ミサワホーム／キリンビバレッジ等の広告キャンペーンのアートディレクション  
●ADC賞、TDC賞、毎日デザイン賞、日本宣伝賞、紫綬褒章 他多数



PORTRAIT  
Around twenty

湘南の海を見つめている18才の浅葉克己。湘南では、石原慎太郎と石原裕次郎が父親からヨットを買ってもらい、湘南の海を制覇していたが、僕は図案、デザインという武器を手に入っていた。この武器でどう暴れてやろうかと考えている一瞬だ。



「流行通信」ポスター(1975)



「ダイアナ」ポスター(1978)

### 「今」をQ&A!!

好きな映画 ..... ガリバー旅行記(2010)／アメリカ  
好きな美術館 ..... ボンビドーセンター(パリ)  
最近気になっていること ..... 地震・津波・原発・余震  
気分転換の方法は? ..... 書道・卓球道・酒道・女人道  
若者に今読むべきおススメの本 ..... 『縮み』志向の日本人・李御幸 / 学生社



はじめてトライした海洋汚染に対するポスター(1965)



トイレットペーパーをモチーフに垂れ流しの状況を訴えたオブジェ(1972)

### 「今」をQ&A!!

好きな映画 ..... ここ数年、映画は見えていない  
好きな美術館 ..... オランジュリー美術館(パリ)  
最近気になっていること ..... 地震津波の災害と原発の惨事  
気分転換の方法は? ..... 散歩 或は自転車に乗る  
若者に今読むべきおススメの本 ..... TRA・タイガー立石 / 工作舎刊 (ナンセンス小間漫画の傑作400頁)

## U.G.サトー

U.G. SATO



スタジオでの商品撮影の時、合間を見て撮ってもらったワンショット。

主な仕事  
四大国際ポスタービエンナーレ(ブルノ)／ラハチ／ワルシャワ／モスクワ)金賞受賞、その他国内外のポスター展で受賞多数。  
著書=U.G.サトーの進化論世界 / U.G.サトーとイラストレーション / 絵本 他

東京学芸大学美術科時代、一週間ポートレートを描き続けた音楽科のピアニストに失恋し半年で退学。白水社というディスプレイ会社の募集に、ポスターを持って応募、入社するも何もできぬまま半年で退社。デザインについて一から学ぼうと桑沢デザイン研究所に入学。造形のおもしろさを知る。卒業後、オカスタジオに就職、パッケージを好んで担当し多くの仕事をする。しかし環境汚染に悩む列島や世界の現実に疑問をもち、社会にアピールするポスターを描きはじめる。やがて「私の進化論」と称するイラストの個展を開催し、その反響の多さに仕事の方向を知ることになる。

## 松永 真

MATSUNAGA SHIN

デザインに立ち向かう時、そのテーマが自分にとって一体全体何なのかを自覚することが全ての始まりである。思いきり自分に引き寄せて主観的に物事を考えることがまず第一歩であると思う。そこで初めて自分にとってどうあってほしいものであるかが見えてくる。夜、天才的な発想と酔い、翌朝、無銭な現実を思い知らされることもあるが、この客観性という「落差」を感じることで出来る力こそがデザイナーであることの大きな適性なのではないだろうか。それが無ければ、他者に共感を呼ぶようなオリジナリティあふれる魅力的なデザインなどという物は生まれ得ない。何でも熱く想うことは肝要なことだが、それを冷静に批判出来る目もなければならぬ。そして、その落差が大きければ大きいほど体が記憶するものも大きい。私はいつも「不幸は、幸せのもとである」と自分に言い聞かせてきた。夢想と現実はいつの間にか歩み寄ってくる。何事も、それをやってみただけ道がひらかれると思うからだ。

主な仕事  
一連の平和ポスター / ISSEY MIYAKE / ベネッセ / カルビー等のCI計画、海外ロケを敢行した。その時のポスターの校正に立ち向かう姿。  
●ワルシャワ国際ポスタービエンナーレ金賞・名誉賞、毎日デザイン賞、芸術選賞、紫綬褒章、亀倉雄策賞、ADC会員賞 他多数



1969年(29才)、初めての大仕事である「資生堂サマーキャンペーン」でクヒチヘ、海外ロケを敢行した。その時のポスターの校正に立ち向かう姿。



「壁ぬけ男」ポスター(1967)



「PEACE"Love,Peace,and Happiness"」ポスター(1986)

### 「今」をQ&A!!

好きな映画 ..... ゴットファーザー(1972)／アメリカ  
好きな美術館 ..... 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館  
最近気になっていること ..... 東日本大震災・政治不信  
気分転換の方法は? ..... 現在やっている仕事と対極的なものに取り組むこと、フリークス(自由きまま)  
若者に今読むべきおススメの本 ..... 山本周五郎や藤沢周平などの時代小説における日本人の精神性

## 記念講演会 篠山紀信『現代を激写する』

2011年3月12日[土]  
愛知芸術文化センター 12階アートスペースA

あれは、3月12日だった。広く東北関東の沿岸部を襲った大津波、これから将来にわたっても影を落とすであろう原発事故の引き金を引いた大地震の翌日だった。私たちは、講演会を準備しながら、東京では山手線も動かさず、新幹線もようやくその朝復旧し動き始めたという中で、篠山先生は大丈夫だろうか、と心配していたが、時間どおり笑みをたたえておみえになった。なんでもまだ東京は、山手線も運休しており、事務所の車で、やっと東京駅まで来たとおっしゃっていた。講演会は、本学の創立40周年と卒業制作展を記念して広く一般の方々に公開したもので、会場には「篠山紀信の話を聞きたい」と集まった二十代から七十代までと年齢層も広く、写真の専門家から愛好家、デザイナー、画家、学生、サラリーマン、主婦等多くの篠山ファン、250人が集まった。

開演に先立って、学長、理事長とともに私どもスタッフは、今年の卒業制作展を見ていただくこと、美術とデザインの卒業会場へ案内した。篠山先生は、その作品の数々を興味深げに立ち止まって見入っておられた。

講演は、大変熱の入ったものであった。印象に残ったのは、写真家になろうという動機については「そういう学校に入ったからだ」とあつけない。ところが、日大の芸術学部へ通う傍ら、もう一つ写真の専門学校へ通い、写真を撮ることに徹したという。その態度がものすごい。大学にいながら同時に正規に勤めたという、ある意味恵まれた時代ということもあるが、すごい。たちまち頭角を現した。しかし、今につながる自分のスタイルを確立するヒントになったのは、リオのカーニバルを撮りに行った時だという。自分というものをあまり意識していると、カーニバルの雑踏の中で美しい被写体に近づくことも、道を横断することすらできないという。しかし、沸き返る群衆の中に、気持ちごとく溶け込み、人々と同じ呼吸をして行動することで、かえって自在になれていい写真が撮れる、そんな意味のことを話された。なるほど、思ったのは私一人ではあるまい。「篠山先生はどんなモデルさんが好きですか」という会場からの質問に、「どんな女性も、どこか奇麗なところがあって、いい」と。そしてそのきれいなところ

に焦点をあてて写真を撮ると、モデルさんは次に会った時には、その様に綺麗になっておっしゃる篠山さんは、「人までつくってしまう」のだと思った。会場は、なるほどというため息と、先生特有のジョークが笑いを誘い、柔らかな空気が流れていた。

こうして時代を画するであろう大地震の翌日に、本学40周年の記念でもある講演会を終えることができた。今思うと、講演での篠山先生の言葉は、新たな時代を生きる私たちに大切な言葉だったのだとかみしめている。

デザイン学部教授 溝口和夫



篠山紀信氏



卒業制作展会場を見学



卒業制作展会場の様子

## ART WORDS FROM THE ART WORLD

### 芸術一話 第7話 災害と美術館

東日本大震災という今や、すべての人々が無関係ではいられない状況の中にある。かつて阪神淡路大震災の時に、美術館が避難所として社会に役立つのだ、と書いたことがあった。確かその時のタイトルは「学芸員は世の中に役に立つや否や」であったと思う。要するに美術館や学芸員は現代社会の非常事態にどのような役割を果たせるのだろうか、を当時学芸員の一人として自問自答したのだ。

学芸員を示すcurator(一般的には学芸部長、館長の意か)の言葉には、判断力を助けたり補ったりする「後見人」の意味も含まれている。このたびも、被災直後に四、五十人被災者を受け入れて、一時避難所になった美術館もある。非常時に限らずアメリカ人画家バーネット・ニューマンは高校時代に授

業を抜け出してメトロポリタン美術館を「神聖な避難所」としていらしい。日常はもとより災害時ですら美術館は専門性を高く保ちつつも、地域社会にあって人々を助けたり、共に生きる場となる機能を失ってはならないだろう。

今回「計画停電」という状況が史上初めて起こった。強制的な電力制限によって作品の保存、展示の温湿度確保の方程式が危うい現実となった。ある県立美術館ではすでに電氣量を半減する手法を実行しているが、莫大な電気を必要とする各美術館がそれぞれの気候風土やシステムをよく研究して、節電体制を構築する工夫と責任が課題となってきた。これからの美術館運営と役割は、これまで以上に美術館、作家、市民、政治、経済という社会全体の構造の中で考える時になった。

※岐阜県美術館は2012年1月のリニューアルオープンにむけ、再整備工事のため2011年7月4日から10月3日まで休館いたします。



岐阜県美術館

岐阜県美術館 館長  
古川秀昭  
Hideaki FURUKAWA